

# GREEN RANGER NEWS

2023 年 1 月号 Vol.345



NPO 法人蔵王のブナと水を守る会事務局  
〒989-0231  
宮城県白石市福岡蔵本字滝下102  
URL <http://www.zao.org/>  
e-mail [mail@zao.org](mailto:mail@zao.org)

今年もよろしくお祈いします

理事長 白内 恵美子

会員の皆様、2023 年をどのようにお迎えでしょうか。

元旦は雪もなく穏やかで、初日の出も見られましたね。私は昨年元朝参りで雪の坂道で転び後頭部を打つという、何とも情けない一年の始まりでしたが、今年は美しい初日の出に感激、森の中を 2 時間半散策し恒例となったヤマコウバシの葉を採取するという、幸先の良い 2023 年の始まりとなりました。

当会の活動は、昨年もコロナ感染予防のため、ほとんど会員だけの活動となりましたが、毎月育林作業に取り組んだおかげで植林木は順調に生育しています。また、カメラ設置による動物の生態調査も毎月 2 回行いました。今回のグリーンレンジャーニュースでは、この 2 つの活動の報告をお届けします。

今年度の活動内容については、2 月の総会で話し合って決めますので、ぜひご参加ください。

## ■12月の活動報告

12月4日(日) 冬季動物生態観察用カメラ設置、自然観察

青空に映える白銀の蔵王連峰を期待していたが、あいにくの曇り空と時々雨。ストーブの暖かさを吹っ切っって、動物観察用カメラの撤去と冬用カメラを設置しに行く。撤去時、撮影動作していないカメラがあったのに気付いた。全てを撤去して作業小屋で点検を行い、2 台不良と判定。以前も 1 台同様の状況があり、スライドスイッチの接触不良ではないかと部品を買って取り換え、手作りで修理してくれたが、今回はどうだろうか。昼食後、かじかむ手で点検良のカメラ 3 台設置終了。小屋に戻り、回収 SD を確認すると、カケスなどがクリを啜って行き、からのはずのリス御膳、そこに設置していたカメラがリスを撮らえていた。諦めていたが、念願のアップ撮影がかないほっとする。これはもう感激でした。参加者:4名

風雪での倒木は気になりますが、今年の外での作業は終了しました。ありがとうございました。

## ■今後の活動について

[理事会]

1月29日(日)9:00~12:00 名取駅コミュニティプラザ 1階

[総会]

2月12日(日)10:00~12:00 名取駅コミュニティプラザ 1階

※新年会はコロナ感染防止のため中止とします。

## 2022 年の森作りの調査について

仲村 得喜秀

2022 年度もコロナの影響で、ほとんどの事業は会員のみでの参加で行われました。そういう中でも、3つの森の成長調査(混交林、笹枯れ地、荒浜海岸の調査)は滞ることなく行いました。個々の調査の詳細については、ホームページに載せているので確認してください。ここでは、それぞれの調査のあらましを報告します。

### 【リスの森・アナグマの森・彩遊の森について】

調査基準について、昨年までは 8m 以上としていたが、昨年は 3 つの森の合計が 965 本となり今年度はその倍近くになると予想され、少ない人数での調査では大変であると思えた。そこで、8m 以上ではなく 9m 以上の調査に変更した。その結果は、昨年より当然のことながら本数は減っている。

リスの森 233 本(昨年 287 本)、アナグマの森 340 本(昨年 451 本)、彩遊の森 102 本(昨年 277 本)となった。3 つの森の 9m 以上の総数は 675 本であるが、一番数の多いのは 8m 台だと思われるので、8m 台を入れると、この倍以上になることは間違いないと思われる。

また、今年は当地内のブナは豊作年で、植林ブナにも花が咲いた。リスの森で 3 本とアナグマの森で 1 本の 4 本に咲いたが、4 年前にリスの森で咲いた木には咲かなかった。予想では 10 本位咲いてくれるのではと思っていたが、次の豊作年(約 4 年後頃)には 10 本を超えて欲しいと欲深く思っている。

行った作業としては、3 つの森でのヤマハンノキの間伐作業、植林木の枝打ちと整枝作業、観察路の草刈り作業などである。尚、今まで引き受けていた白石市農林課の仕事は、私の健康上の理由で断ることにした。

### 【針広混交林実験地について】

調査木の平均樹高の昨年との比較を記す。

カツラ 9.67m⇒10.3m    オオバボダイジュ 8.33m⇒12.1m    ケヤキ 5.9m⇒6.1m

トチノキ 6.5m⇒6.7m    ホオノキ 4.0m⇒4.5m    クリ 9.0m⇒8.5m

ブナ 3.9m⇒3.5m    ウダイカンバ 9.0m⇒8.0m    コナラ 5.0m⇒3.9m

ハルニレ 10.0m⇒11.0m    ミズナラ 4.75m⇒5.2m

マイナス成長になっているものの原因は、目測の誤り、先端部の折れなどがある。行った作業としては、スギの間伐、スギの枝打ちなど。今後の課題は、大木となったカラマツ・スギと広葉樹のバランスをどうとっていくかになる。

### 【笹枯れ地の調査】

笹枯れ地の調査は 2018 年から行っている。10m×10m で 3 か所の方形区内の植生の変化を調査しているものである。いずれの地も高さ 12~14m のアカマツ林内である。詳細については、ここでは省略するが、3 地点共に植生の回復程度は同じような傾向を示している。2018 年の調査では、進入植物は樹木、草本共に小さく、種類、本数も極端に少ない。2019 年になると少しは増えてくるが、植生の回復を感じられることが無かったので、2020 年と 2021 年は調査をしないことにした。

2022 年に調査を再開。結果として、3 地点共に地上植被率 90~100%となっていて、樹木、草本共に種類、本数も増え、将来高木となるであろう樹種の侵入も増えていた。2022 年の調査時は 3 か所共に見通しは良かったが、次の調査は 2025 年に行う予定で、その時には侵入樹木が伸びていて見通しは悪くなっているものと思われる。笹枯れ地の植生の回復はもっと早く進行するものと思っていたが、アカマツ林内というのが原因と思われるが、回復は遅いというのが所感である。

#### 【荒浜海岸林について】

パイオニアプラントであるヤマハンノキ、オオバヤシャブシ、ハンノキ、シロヤナギについては、順調に伸び 3~5mの高さになっていて、遠くからでも当会の植林地は分かるほどである。個々の樹種の詳細は省略するが、パイオニアプラント以外で最もよく伸びているのはイヌシデである。ケヤキについては、まだ死んだふりをしているものがほとんどであるが、2 本は急激に伸びていて 4~5 本には新芽が出ていたので、土壌条件を整えば一気に伸びてくるものと思われる。アベマキには急激に伸びたものはないが、葉の大きさと冬芽の大きさが普通に戻りつつあるので、今後は伸びてくれると思っている。コナラ、カスミザクラ、アカシデ、ウワミズザクラ、ミズキ、イタヤカエデについては、同じような傾向が見られる。根元から新芽を伸ばしているもの、急激な伸びを見せているもの、死んだふりをしているもの、衰退しているもの、枯死しているもの等がどの樹種にも見られる。ブナについては当初は枯死を心配されたが、現在は二股ながら回復していて冬芽もそんなに悪くはない。

地上植生の遷移については、ススキをはじめ多様な草本類が被度 100%となって地表面を覆っている。これは肥料木といわれているパイオニアプラントの力によるものと思われる。草本類の刈払いは今までは 1 年に 1 回だったが、来年からは 7 月と 8 月末頃の 2 回しなければならない。尚、今回もクズのはびこりはすさまじく、これも除去しなければならない。

全体の所感としては、思ったよりは遅い回復ではあるが、個々に見ればそれぞれの樹種で何本かは伸びているものはあり、後は時間の問題だと思っている。良くはなっても悪くなることはないと思っている。